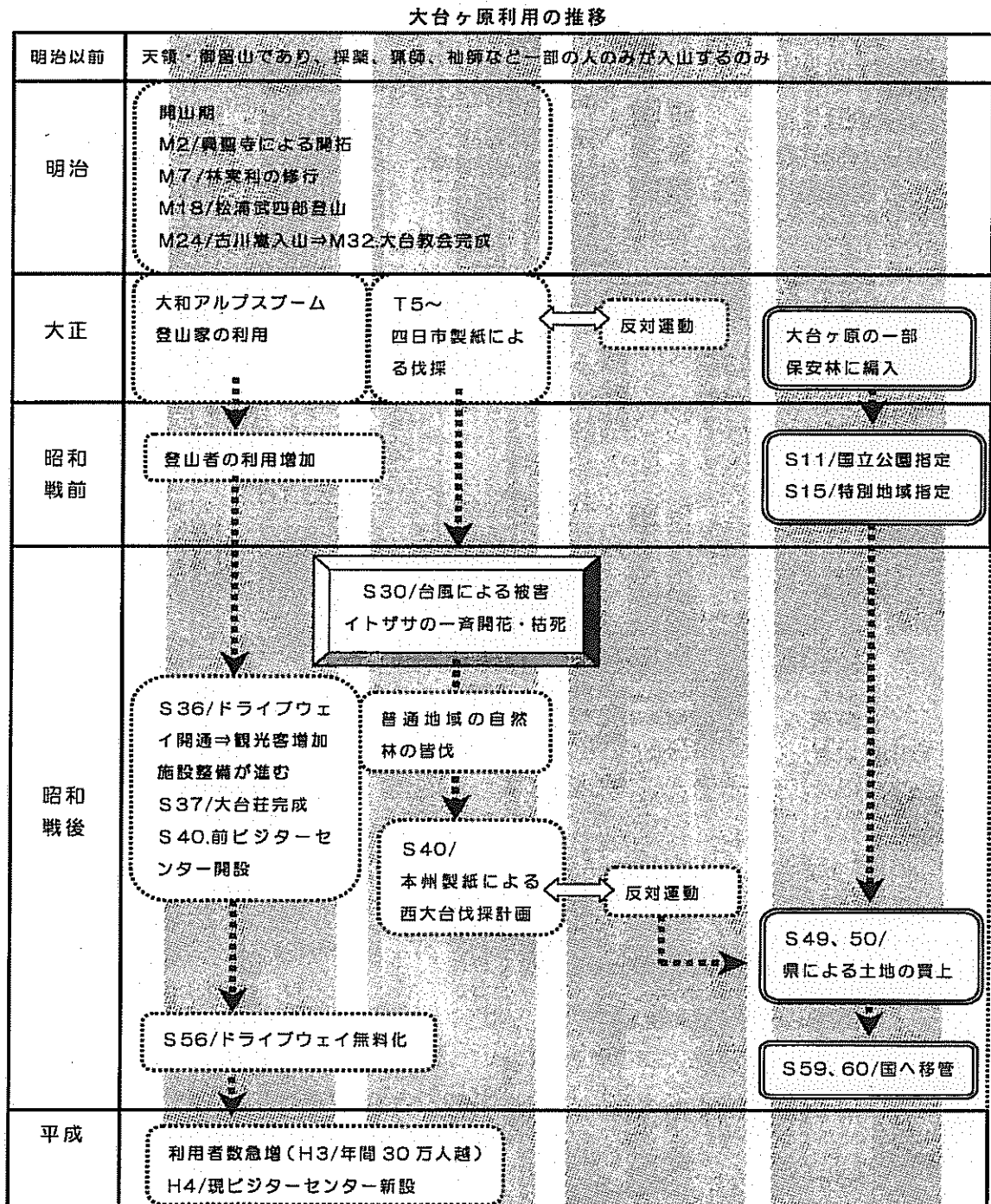


大台ヶ原の特性把握と他地域の事例

(1) 大台ヶ原の特性把握

大台ヶ原開山からの利用史の検討と、紀伊半島における大台ヶ原の観光地としての位置付け分析によって、大台ヶ原の利用の特性把握を行った。

①大台ヶ原利用の推移



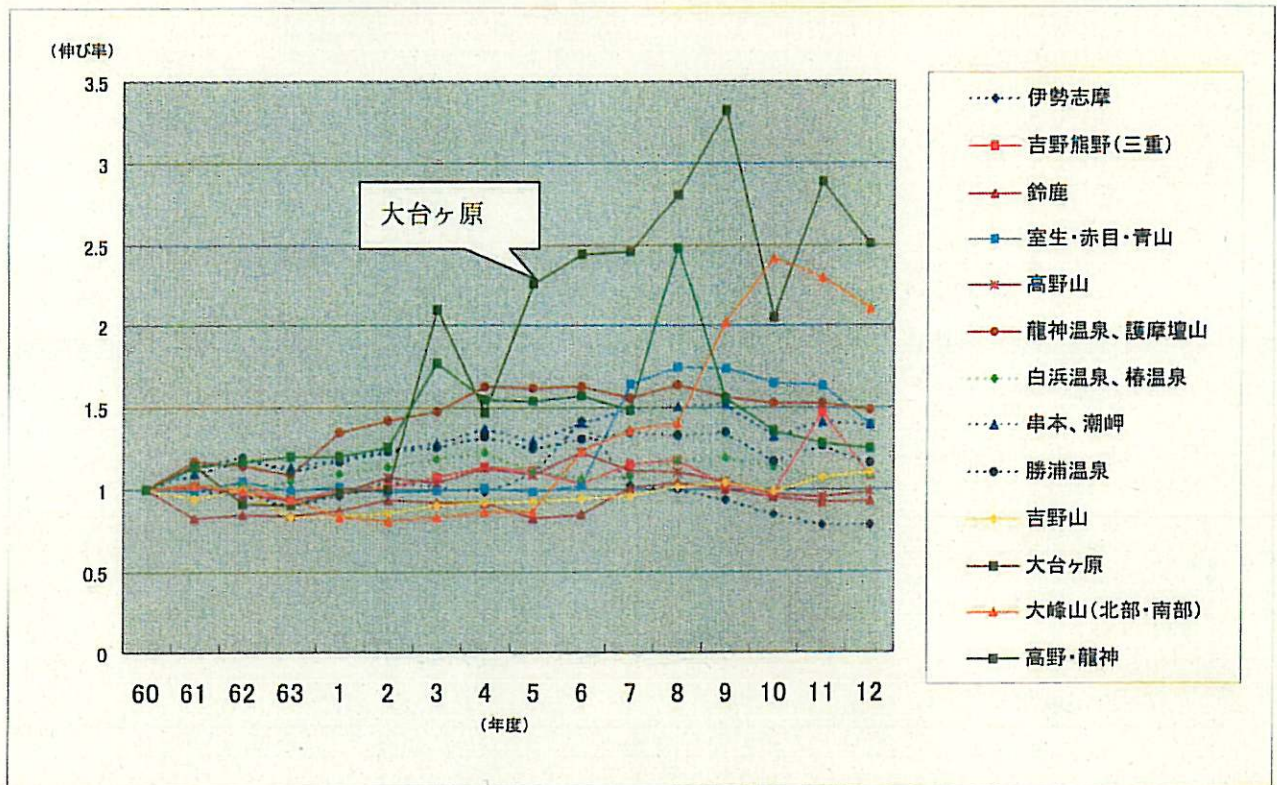
## ②紀伊半島における大台ヶ原の特色

紀伊半島には地形や自然の特徴を活かした豊かな観光資源が数多く存在する地域である。主な観光地としては、自然そのものとふれあうものや社寺・霊場など文化・歴史的なもの、古くからの温泉地などがある。

紀伊半島における下記の主な観光地の昭和60年～平成12年までの15年間の伸び率を見ると、海岸系の観光地に比べ、大台ヶ原、大峰山、室生・赤目・青山などの山岳系観光地の伸びが飛躍的に大きく、なかでも大台ヶ原の伸び率が最も高い。このことが現在のオーバーユースによる問題を生じさせる要因の一つであると考えられる。

紀伊半島における主な観光地の特性

	地域名	自然公園	海岸	山岳	文化歴史	温泉	圏域(大阪から)
国立公園	伊勢志摩	伊勢志摩	●		●		150km圏
	大台ヶ原	吉野熊野		●			100km圏
	吉野熊野(三重)	吉野熊野	●				100km圏
	大峰(北部・南部)	吉野熊野		●	●		100km圏
	串本、潮岬	吉野熊野	●				150km圏
	吉野山	吉野熊野		●	●		50km圏
	勝浦温泉	吉野熊野	●		●	●	150km圏
国定公園	鈴鹿	鈴鹿		●			100km圏
	室生・赤目・青山	室生赤目青山		●			100km圏
	高野山・竜神・護摩壇山	高野竜神		●	●	●	50km圏
	白浜温泉・椿温泉		●		●	●	100km圏



紀伊半島の主な観光地における観光客数の伸び率

## (2) 利用対策に関わる事例分析

利用に関わる量の適正化、質の向上策を進めている事例として、次のような方策が参考とされる。

### ①量の適正化

- ・全国 28 の国立公園のうち、15 の国立公園で自動車利用適正化対策が実施。車両の通行禁止と駐車場および代替交通機関の提供のセットが基本となるが、営業車両やバスの取り扱い、駐車場やシャトルバスの料金設定などは地域の事情による。実施方法も地域により異なるが、環境省主唱により、地元自治体、観光協会や地元の各種協議会が、道路管理者や道路交通法を所管する公安委員会の協力を得て実施する手法が多い。
- ・アメリカの国立公園では「利用者に良好な自然体験の提供」と「公園内の自然環境の適切な保全」の両者の達成を求める管理手法としてキャンプ利用者の上限を設定している。
- ・富良野芦別道立自然公園「蛙山（きりぎしやま）」では固有種・希少種の保護・増殖を図ることを目的として入山規制を行っている。

### ②質の向上

- ・尾瀬では尾瀬保護財団を設立し、解説活動及び適正利用に関する普及啓発を実施することにより、利用者自らの適切な行動を促しその自然の活用を図っている。
- ・東京都は、地域を指定して一定のルールのもと東京都が認定したガイドとともに利用することなどにより、島嶼地域の自然の保護と適正な利用を図る独自の要綱を制定している。

### ③自然の保護と地域産業振興

- ・屋久島ではエコツアーの定着が進み、エコツアーガイド従事者が増加、地域の観光産業の 1 形態として育ちつつある。
- ・上高地ではマイカー規制後も総入込数の減少はみられず、シャトルバス乗換え駐車場周辺では民間の有料駐車場や宿泊施設などの観光施設が立地している。

### ④新しい利用形態

- ・大山頂上では「一木一石運動」と呼ばれる登山者参加の植生回復が成果をあげている。
- ・吉野熊野国立公園でも、清掃作業や自然との触れ合いなどを取り入れたエコツアーを民間の旅行会社が企画している。